



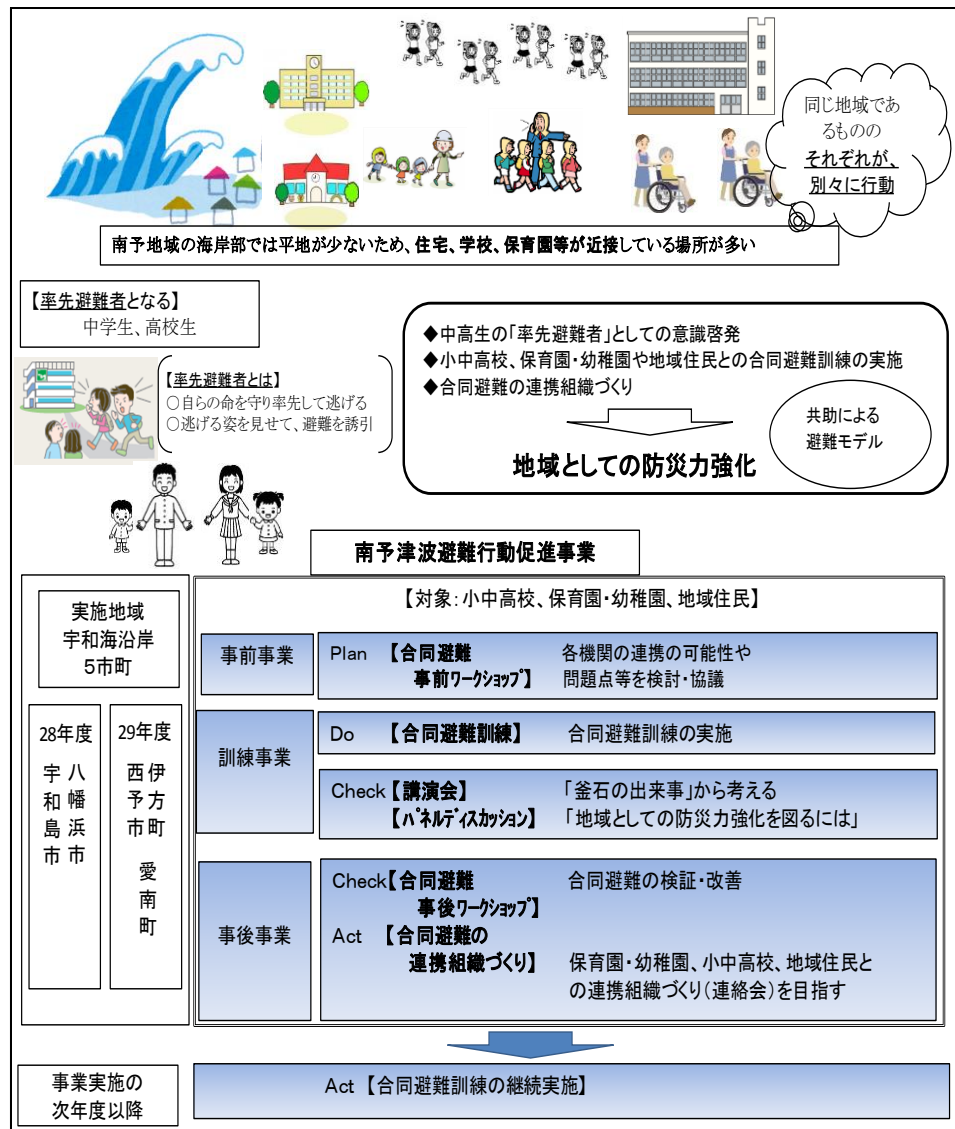
【目次】

- 1 南予津波避難行動促進事業について
- 2 消防学校地域防災リーダー養成講座（えひめ防災インストラクター養成コース）を実施しました！
- 3 愛媛県防災士・自主防災組織連絡調整会について
- 4 「愛媛県防災メール」や「愛媛県防災SNS」をご活用ください！
- 5 県からのお願い・えひめ防災ニュースレターのお問い合わせ先

【1】南予津波避難行動促進事業について

南予地方局では、南海トラフ巨大地震が発生した際に大きな津波被害が予想される宇和海沿岸（5市町）において、『率先避難者』となり得る中・高生を中心とした共助による避難モデルを構築し、連携した組織づくりを行うことにより、地域としての防災力強化を目指すため次の事業を実施しました。

【事業イメージ】



【事業実施状況】

(1) 事業内容

【合同避難訓練事前事業】

事前ワークショップ

: これまで行ってきた避難訓練の内容について検証するとともに、各校が合同で避難訓練を行う際の連携などの問題点について検討

【合同避難訓練事業】

合同避難訓練

: 実際に合同避難を実施し、避難場所・避難経路・所要時間の問題を検証

防災講演会

: 率先避難の事例をもとに、自分にもできる率先避難行動を考える

西予市三瓶 : 兵庫県立大学 防災教育研究センター
准教授 **紅谷 昇平 先生**

演題「津波から一人でも多くの命を助けるために」

伊方町三崎 : 愛媛大学 防災情報研究センター
客員教授 **高橋 治郎 先生**

演題「釜石の出来事から考える」

愛南町 柏 : 兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科
准教授 **阪本 真由美 先生**

演題「過去の災害に学ぶ：南海トラフ巨大地震を
生き抜くための避難行動」

意見交換会

: 避難訓練の問題点について話し合い、改善点の認識を共有する

【合同避難訓練事後事業】

事後ワークショップ

: 今後の合同避難訓練に向けた、避難訓練の改善点を検討したほか、児童・生徒が地域や家庭にいる際の率先避難行動の実践方法について検討

(2) 各地区での事業実施状況

- ①伊方町三崎地区 : 平成 29 年 5 月 18 日から 平成 29 年 6 月 27 日まで
- ②西予市三瓶地区 : 平成 29 年 6 月 2 日から 平成 29 年 6 月 21 日まで
- ③愛南町柏地区 : 平成 30 年 1 月 30 日から 平成 30 年 2 月 13 日まで

(3) 今後の実施予定について

ご参加いただいた学校や保育園等では、今回の事業を地域の共助体制を構築するきっかけとして、来年度以降も各地区自治会等と合同で避難訓練や防災訓練を開催するよう計画を進めている。

①【伊方町三崎地区】参加者：三崎中学校、三崎小学校、三崎保育所

事業名 (実施日)	実施内容及び 実施場所	参加者 (人数)	実施状況
事前 事業 (5/18)	事前ワークショップ 三崎小中学校体育館	児童・生徒・教諭、 保育所職員 (約 80 名)	 
合同避難 訓練事業 (6/16)	合同避難訓練 三崎高校まで	児童・生徒、教諭、 保育所園児、職員 (避難訓練 約 150 名 講演会 約 120 名 意見交換会 約 90 名)	 
	防災講演会 三崎小中学校体育館		 
	意見交換会 三崎小中学校体育館		
事後 事業 (6/27)	事後ワークショップ 三崎小中学校体育館	児童・生徒・教諭、 保育所職員 (約 90 名)	 

②【西予市三瓶地区】参加者：三瓶小学校、三瓶保育園、ひまわり保育園

事業名 (実施日)	実施内容及び 実施場所	参加者 (人数)	実施状況
事前 事業 (6/2)	事前ワークショップ 三瓶小学校体育館	児童・教諭、 保育園教諭 (約 280 名)	 
合同避難 訓練事業 (6/14)	合同避難訓練 津波避難場所まで	児童・教諭、 保育園園児・教諭 (避難訓練 約 420 名 講演会 約 430 名 意見交換会 約 180 名)	 
	防災講演会 三瓶小学校体育館		 
	意見交換会 三瓶小学校体育館		
事後 事業 (6/21)	事後ワークショップ 三瓶小学校体育館	児童・教諭、 保育園教諭 (約 270 名)	 

③【愛南町柏地区】参加者：柏小学校、柏保育所

事業名 (実施日)	実施内容及び 実施場所	参加者 (人数)	実施状況
事前 事業 (1/30)	事前ワークショップ 柏小学校ホール	児童・教諭、 保育所職員 (約 60 名)	
合同避難 訓練事業 (2/7)	合同避難訓練 柏寿園まで	児童・生徒、教諭、 保育所園児、職員 (避難訓練 約 100 名 講演会 約 70 名 意見交換会 約 70 名)	 
	防災講演会 柏小学校ホール		 
	意見交換会 柏小学校ホール		 
事後 事業 (2/13)	事後ワークショップ 柏小学校ホール	児童・教諭、 保育所職員 (約 50 名)	 

【2】消防学校地域防災リーダー養成講座（えひめ防災インストラクター養成コース）を実施しました！

県では、自主防災組織活動による地域防災力の向上を図り、南海トラフ地震などの大規模災害による被害を軽減するため、**えひめ防災インストラクター**の養成に取り組んできました。**えひめ防災インストラクター**とは、防災に関する経験や技能、知識等を有している方を、地域防災のリーダーとして県が認定し、自身の自主防災組織の育成だけでなく、**組織の枠を超えて地域全体の防災力強化のために活躍**していただくものです。

今年度のえひめ防災インストラクター養成講座では、県消防学校を会場に、最新の知見や被災時の体験から学ぶ座学研修と同校の設備やノウハウを活用した実技研修を2日間に渡り実施し、この度、同講座を受講した79人を新たにえひめ防災インストラクターとして認定しました。

今回は、今年度の講座の内容について報告します。

【平成 29 年度えひめ防災インストラクター養成講座 カリキュラム】

	初 日	2 日 目
1	【講義】 南海トラフ地震への防災・減災対策 (愛媛県危機管理監)	【講義】 防災士と消防団との連携について (人と防災未来センター)
2	【講義】 過去の大規模災害から学ぶこと (益城大好きプロジェクト・きままに)	【講義】 防災訓練のあり方 (人と防災未来センター)
3	【ワークショップ】 自主防災リーダーの役割と活動事例 (愛媛大学防災情報研究センター)	【実技】 救出救助対応訓練 (愛媛県消防学校)
4	【ワークショップ】 地域の防災意識を高めるためには ((一財) 消防防災科学センター)	【実技】 避難所運営体験 (兵庫県防災士会)

【講義】

過去の大規模災害から学ぶこと



平成 28 年 4 月に発生した熊本地震の際に、避難者によって避難所を自主運営し、そのリーダーとして活躍された吉村静代さん。

避難所の中に避難者が集まるカフェやキッズスペースを作り、避難所運営の好事例として紹介されている運営方法について講義していただきました。

【ワークショップ】

自主防災リーダーの役割と活動事例



愛媛大学防災情報研究センターの二神透副センター長によるワークショップでは、大学生防災リーダークラブに所属する学生の皆さんにも研修のグループに参加していただき、受講者と一緒に地域課題や具体的な活動内容、その中でリーダーが果たすべき役割などについて話し合いました。

【講義】

防災士と消防団との連携・防災訓練のあり方



人と防災未来センター（神戸市）の主任研究員である本塚智貴さんの講義では、熊本地震の被災地での支援を通じて目にした、地域と防災士・消防団の連携による取組の好事例を紹介していただきました。

また、自主防災活動を行っていく上での課題や悩みを解決する方法について、具体的な事例を挙げながらお話ししていただきました。

【実技】

避難所運営体験



兵庫県防災士会の横山恭子さんによる実技研修では、避難所を運営するうえで必要な知識と技術を身に付けるため、実際に段ボールベッドや持ち運びのできる簡易トイレの組み立てを行いました。

また、身近にあるものを使ってマスクなどの衛生用品を作る方法など、被災時に体調を崩さない衛生環境の整え方についても教えていただきました。

【実技】 救出救助対応訓練



県消防学校教官による実技研修では、災害発生後の救出救助活動の際に必要な知識と技術を身に付けるため、必要となる資機材の説明、がれきの中からの救助方法、負傷者を運ぶ方法やその際の注意点、ロープワークなどの指導が行われました。受講者の中には初めての体験に苦戦する方もいましたが、実際に救出救助活動を行ってきた教官による研修は、自ら体感して学べる良い機会となったとのことでした。

【3】愛媛県防災士・自主防災組織連絡調整会の開催について

県では、県内の自主防災組織や防災士の連携・交流を推進し、県全体の地域防災力の一層の強化を図るため、「愛媛県自主防災組織・防災士連絡調整会」を昨年度に設置し、今年度の第2回目の会議を開催しました。

各市町の自主防災組織や防災士の代表者で構成する連絡調整会は、自主防災活動に係る情報交換、防災に関する知識の普及啓発、行政機関や関係機関との連携等を目的として設置され、市町の枠を超えた県全体での地域防災力の底上げにつながることを期待されます。

【平成 29 年度第 2 回愛媛県防災士・自主防災組織連絡調整会 会議概要】

【開催日時】平成 30 年 2 月 9 日（金） 13：30～16：00

【場 所】愛媛県庁第二別館 6 階 大会議室

【会議内容】 ○自主防災組織の体制と防災士の役割について

○それぞれが抱えている課題や先進的な取組についての意見交換

【主な発言内容】

○防災士会のメンバーが中心となり、防災活動を行う組織単位を 1 組織あたり約 100 世帯となるよう改編を進めている。（今治市今治地区防災部会）

○被害想定と対策による被害軽減効果を住民に伝達し、自主防災組織活動の必要性を訴えている。（宇和島市番城校区防災士会）

○学校との連携について、実際に避難所となる中学校で生徒に対し、防災士が講師となり H U G（避難所運営ゲーム）を実施した。（東温市防災士会）

○運動会や文化祭など折を見て自主防災組織の代表者が学校に行き、常に学校と地域がコミュニケーションを取ることで、学校で実施する訓練や学校への備蓄品の保管、学校の鍵の預かりなどについてうまく連携が取れている。（松山市自主防災組織ネットワーク会議）

○愛媛大学防災リーダークラブが今年で 3 年目となり、スキルアップ研修を重ね、H U G 等の講師を務められるリーダーが育っている。研修などに学生が参加すると、防災士や地域の方も防災活動を楽しんで行っているようなので、活発に活動するための起爆剤として活用してもらいたい。（二神 透 愛媛大学防災情報研究センター副センター長）



【4】「愛媛県防災メール」や「愛媛県防災SNS」をご活用ください！

県内に対する防災情報をお手持ちの携帯電話やパソコンに電子メールで配信する「愛媛県防災メール」を提供しています。**どなたでもご利用いただけます**のでぜひご登録ください。愛媛県ホームページで詳細な内容をご覧ください。

▼詳細についてはこちら↓

<http://www.pref.ehime.jp/bosai/bosaimail.html>

▼配信情報

地震情報、津波情報、警報・注意報、土砂災害警戒情報、河川洪水予報、市町からの避難勧告等の避難情報、避難所開設情報、週間天気予報、国民保護情報、その他お知らせ

▼登録方法

■ QRコードを利用する場合

右のQRコードを読み取り、空メールを送信して下さい。

■ QRコードが読み取れない場合

bousai.ehime-pref@ehime-pref.ktaiwork.jpへ直接空メールを送信して下さい。



登録用QRコード

▼注意事項

無料をご利用頂けますが、通信に要する費用（パケット料）は、御利用される方の負担となります。

愛媛県防災SNSを開設しています！

県内の気象警報・注意報や土砂災害警戒情報などの災害情報の他、防災啓発情報などを配信しています。



Twitter @EhimeBousai <http://twitter.com/EhimeBousai>



Facebook 愛媛県防災 <https://www.facebook.com/EhimeBousai>

まもなく
提供開始予定！

避難支援アプリ完成間近！

スマートフォンで防災情報や避難ルートを多言語でビジュアルに表示します。



▼お問合せ

愛媛県 県民環境部 防災局 防災危機管理課 防災情報グループ

TEL 089-912-2318

Mail bousaikikikanri@pref.ehime.lg.jp

【5】県からのお願い・えひめ防災ニュースレターのお問い合わせ先

県では、みなさんの地域での防災に関する取組みを紹介し、自主防災組織の活性化を図りたいと考えています。

あなたの地域での防災の取組みなどについて、教えてください。

▼募集内容

- あなたの地域でのユニークな防災活動に関すること（人・防災訓練・自主防災組織など）
 - 自主防災組織の取組事例
 - こんな事で困っている、苦勞している点または質問 など
- ※掲載資料、写真データの提供もお願いします。

▼お問い合わせ、情報提供および本ニュースレターについてのご意見は、下記までお願いします。

愛媛県 県民環境部 防災局 防災危機管理課 防災危機管理グループ

TEL 089-912-2319

Mail bousaikikikanri@pref.ehime.lg.jp

▼愛媛県HPでの防災情報はこちら

えひめの防災・危機管理ホームページ↓

<http://www.pref.ehime.jp/bosai/index.html>

みきゃんも皆からの情報を待っとるけん！！

